

第 4 章

地区別構想

4-1. 地区区分

4-2. 東部地区

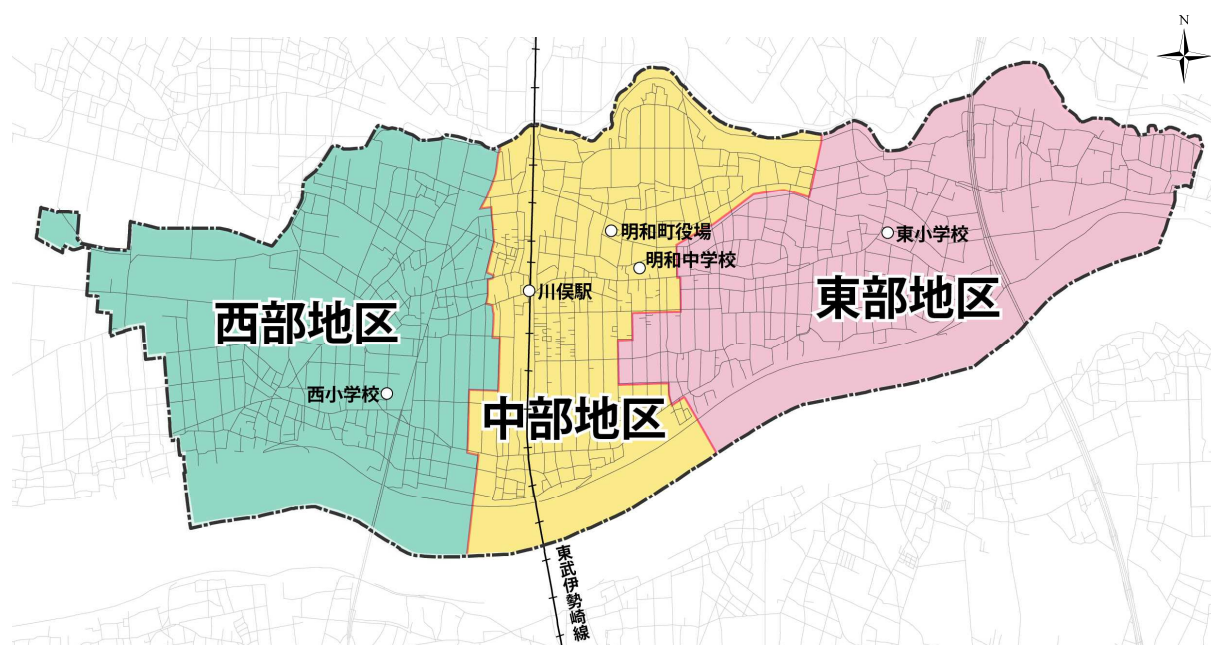
4-3. 中部地区

4-4. 西部地区

4-1. 地区区分

地区別構想では、まちを「東部地区」「中部地区」「西部地区」の3地区に区分し、それぞれの地域特性に応じた実践的なまちづくりの方針を示します。

【地区区分】



	西部地区	中部地区	東部地区
構成する行政区	川俣・須賀・大輪 入ヶ谷・矢島・大佐貫	南大島・新里・中谷・梅原	斗合田・下江黒・上江黒 千津井・江口・田島
地区の概況	・明和工業団地をはじめとした工業専用地域が広がる地区です。 ・国道122号沿道の開発による新たなまちづくりに取り組んでいるところです。	・川俣駅や役場をはじめとした公共施設などが集積する町の中心地区です。 ・川俣駅周辺については、「明和メディカルセンタービル」が完成し、商業施設などの整備を進め、にぎわいの創出に取り組んでいるところです。	・田園風景をはじめ、梨畑やシクラメンハウスなどの農地が広がる自然豊かな地区です。 ・東北自動車道館林インターチェンジから近く、新たな工業団地整備によるまちづくりに取り組んでいるところです。

以降に記す地区づくりの方針では、以下のように文章を色分けしています。

どこで

なにをする

4-2. 東部地区

(1) 地区の概況

【地区の指標と位置】

	地区の数値	全域に対する割合
該当地区	斗合田、下江黒、上江黒、千津井、江口、田島	
地区の面積	716.1ha	36.5%
地区の人口	2,483 人	22.8%
地区の世帯	840 世帯	20.5%

出典：国勢調査（2020 年）

(2) 地区づくりの方針

- ・ 東部地区は、東小学校周辺を中心に、既存コミュニティや日常生活の利便性の維持・向上を図り、交通利便性や住環境に恵まれた住み良いまちづくりを進めていきます。

【地区づくりの方針図】



【地区づくりの方針】	
分野	東部地区における地区づくりの方針
土地利用の方針	◆住宅地・集落地 - ふれあいセンタースズカケは、乳幼児から高齢者まで地域住民が世代を超えてふれあえる交流施設として活用を図ります。 - 上江黒団地は、「明和町公営住宅等長寿命化計画」に基づき用途廃止を進めます。 - 東部工業団地への企業誘致とあわせ、東小学校周辺への住環境形成の可能性について検討します。 ◆工業地 - 東部工業団地は、東北自動車道館林インターチェンジなどの広域道路ネットワークへのアクセスが図られることから、産業基盤の早期整備と積極的な企業誘致を図ります。 - 上江黒地区周辺は、広域道路ネットワークの活用、館林インターチェンジへの良好なアクセス性や隣接する館林市の産業との一体的な土地利用が期待できることから、地域コミュニティへの影響を考慮し、新たな産業拠点としての整備可能性を検討します。
都市施設の方針	◆道路 (仮称)南大島・上江黒線は、地域間の交流や、産業活動の支援に向けて、拠点や施設と工業団地などを結ぶネットワークの構築を図ります。 - 主要な道路は、平常時だけでなく災害時においても安全な道路環境の確保に向けて、歩道設置などの交通安全事業を進めます。 ◆公共交通 - 生活利便性維持のため、デマンド型交通サービスなどの地域密着型の移動手段の確保を進めます。
都市環境の方針	◆循環型社会形成 「もったいない東館」は、東小学校やふれあいセンタースズカケと連携したイベントなど、住民の環境に対する意識の向上や地域コミュニティの形成にも繋がる活用を検討します。 ◆地球温暖化対策 - 公共施設は「明和町公共施設等総合管理計画」や「明和町個別施設計画」に基づき、計画的な維持・更新などを図るとともに、再生可能エネルギー導入の検討も行います。
都市防災の方針	◆火災・震災対策 - ふれあいセンタースズカケは、発災時に要配慮者を受入れる福祉避難所として機能強化を図ります。 ◆風水害対策 - 洪水により大きな被害が予想されるため、発災前の広域避難を推進するとともに、地域防災力の向上について検討を進めます。

4-3. 中部地区

(1) 地区の概況

【地区の指標と位置】

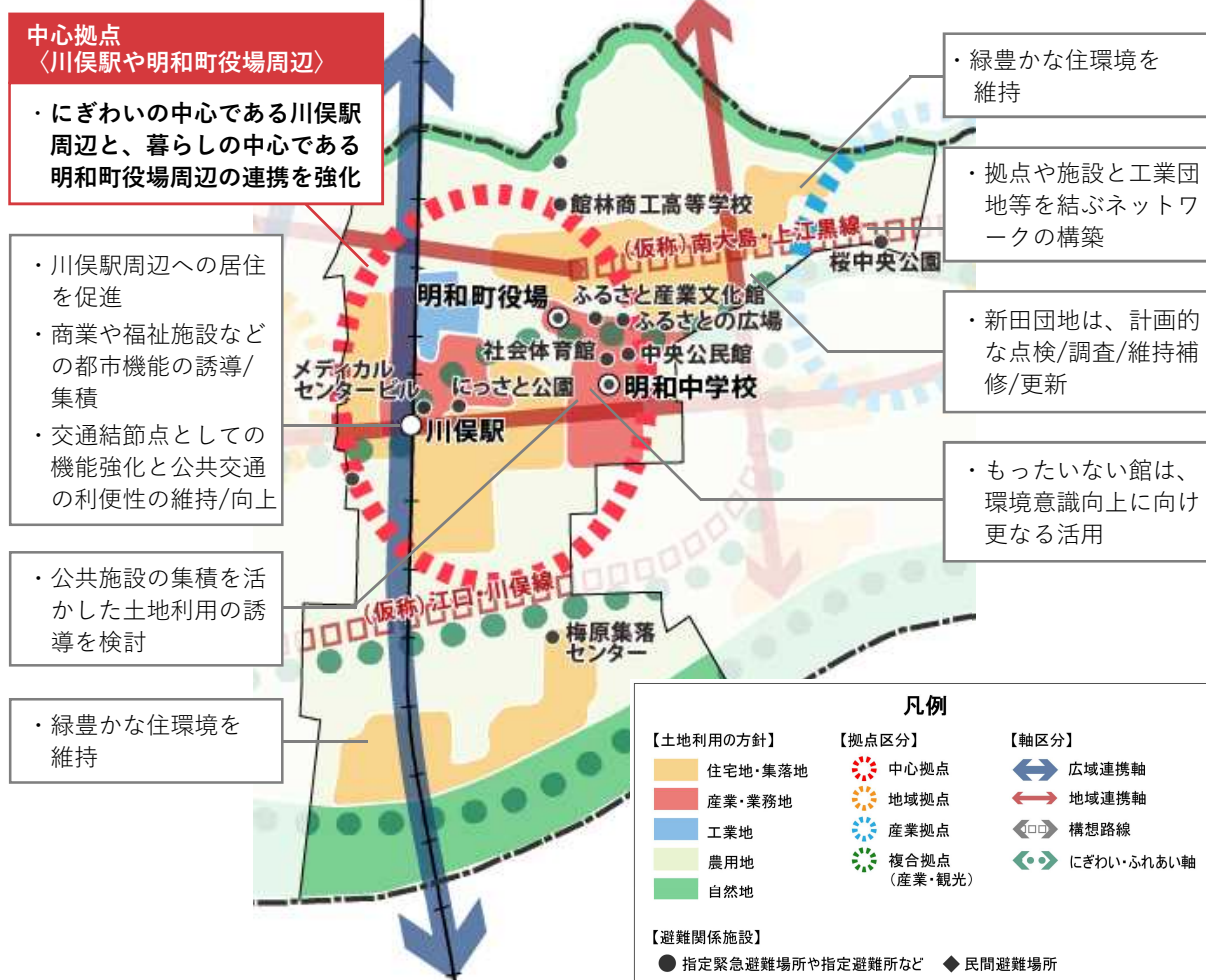
	地区の数値	全域に対する割合
該当地区	南大島、新里、中谷、梅原	
地区の面積	537.9ha	27.4%
地区の人口	5,611 人	51.6%
地区の世帯	2,274 世帯	55.6%

出典：国勢調査（2020 年）

(2) 地区づくりの方針

- ・ 本町の中心部に位置する中部地区は、川俣駅や明和町役場周辺を中心に、町内外から人々が集い、交流する場としてにぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

【地区づくりの方針図】



【地区づくりの方針】	
分野	中部地区における地区づくりの方針
土地利用の方針	◆住宅地・集落地 - 川俣駅や明和町役場周辺は、立地適正化計画に基づいた都市機能の充実と良好な住環境づくりにより、居住を促進します。 - 南大島や梅原に位置する大規模指定既存集落は、緑豊かな住環境の維持を図ります。 - 新田団地は、「明和町公営住宅長寿命化計画」に基づき、良好な状態に保持し、災害時においても住宅として機能が発揮できるよう計画的な点検・調査、維持補修や更新を推進します。 ◆産業・業務地 - 川俣駅や明和町役場周辺は、医療複合施設・商業施設などの既存施設を活かした、まちの玄関口・中心地にふさわしい都市の活力や魅力を創出する土地利用を図ります。
都市施設の方針	◆道路 - 町内及び館林都市圏との道路ネットワークの強化や産業活動の支援として、地区北部に（仮称）南大島・上江黒線、地区南部に（仮称）江口・川俣線の整備・検討を進めます。 - 主要な道路は、平常時だけでなく災害時においても安全な道路環境の確保に向けて、歩道設置などの交通安全事業を進めます。 ◆公共交通 - 川俣駅は、バス交通やデマンド型交通サービスへの乗り換えや、駅東西間の連絡など、円滑な移動を支援する交通結節点としての機能強化を図ります。また、駅前プラザ「メイちゃん家」における待合スペースや情報発信スペースなど、サービス機能の充実により、広域連携を支える公共交通の利便性の維持・向上を図ります。 ◆公園緑地・河川 - 桜並木路やふるさと広場は、適切な維持管理を行うとともに、本町のシンボルとして積極的な活用を図ります。
都市環境の方針	◆循環型社会形成 「もったいない館」は、住民の環境に対する意識の向上や地域コミュニティの形成にも繋がる活用を検討します。 ◆地球温暖化対策 - 公共施設は「明和町公共施設等総合管理計画」や「明和町個別施設計画」に基づき、計画的な維持・更新などを行うとともに、再生可能エネルギー導入の検討も行います。
都市防災の方針	◆火災・震災対策 - 明和町役場、ふるさと産業文化館（日本キャンパクホール）や明和メディカルセンタービルは、主な災害対策拠点として機能強化を図ります。 - 川俣駅周辺は、災害時における協力体制の充実や避難環境の整備を図ります。 - 桜並木路は、災害時に避難路としての機能を発揮できるよう、維持管理を実施します。 ◆風水害対策 - 洪水により大きな被害が予想されるため、発災前の広域避難を推進するとともに、地域防災力の向上について検討を進めます。

4-4. 西部地区

(1) 地区の概況

【地区の指標と位置】

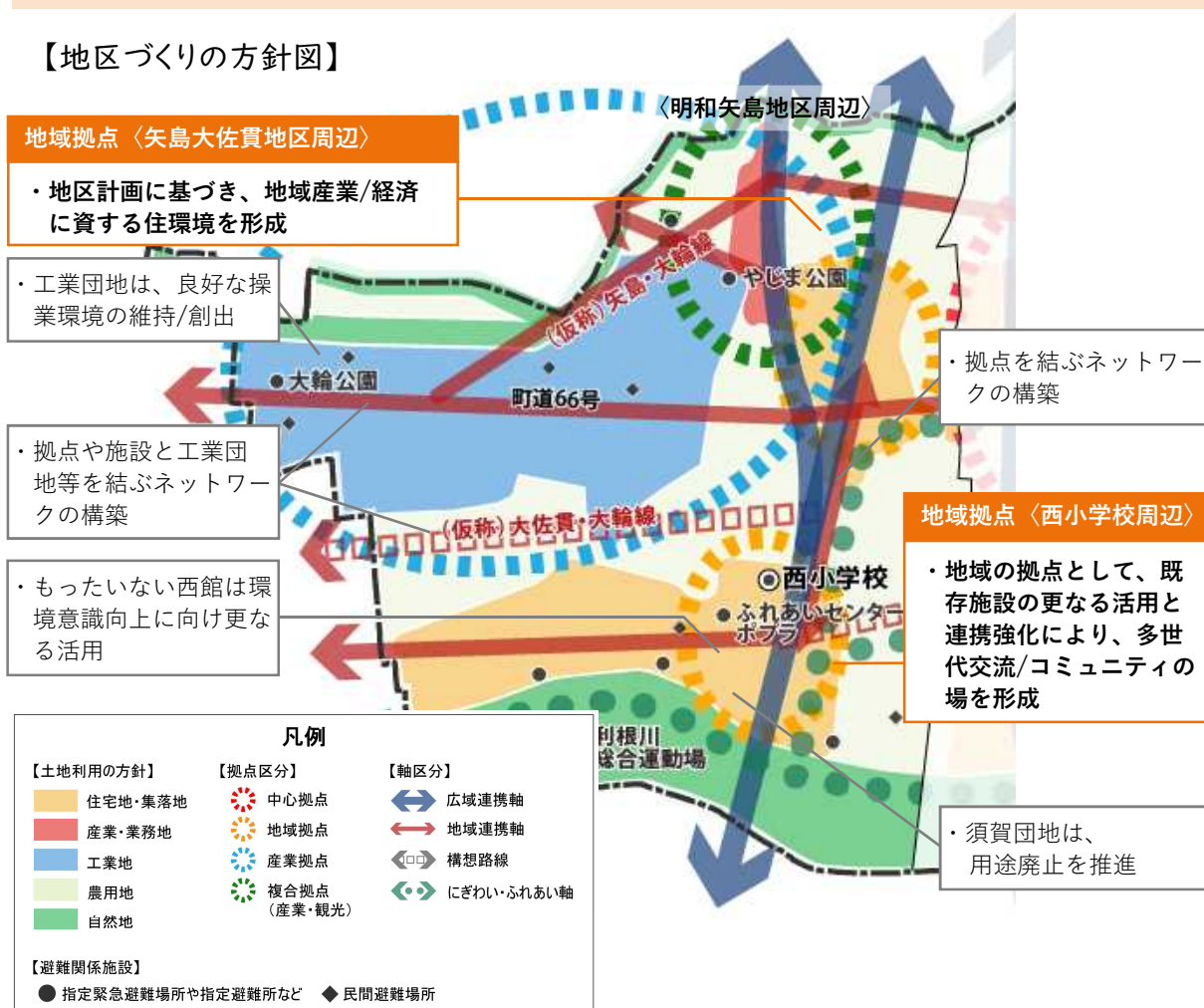
	地区の数値	全域に対する割合
該当地区	川俣、須賀、大輪、入ヶ谷、矢島、大佐貫	
地区の面積	710ha	36.2%
地区の人口	2,788 人	25.6%
地区の世帯	975 世帯	23.8%

出典：国勢調査（2020 年）

(2) 地区づくりの方針

- 西部地区は、西小学校周辺や矢島大佐貫地区周辺を中心に、既存コミュニティや日常生活の利便性の維持・向上を図り、産業と自然が調和し、さらなる発展を目指したまちづくりを進めていきます。

【地区づくりの方針図】



【地区づくりの方針】

分野	西部地区における地区づくりの方針
土地利用の方針	◆住宅地・集落地 - 矢島大佐貫地区周辺は、地区計画を活用し、発展を遂げる地域産業と調和した良好な居住環境の形成を図ります。 - ふれあいセンターポプラは、乳幼児から高齢者まで地域住民が世代を超えてふれあえる交流施設として活用を図ります。 - 須賀団地は、「明和町公営住宅等長寿命化計画」に基づき用途廃止を進めます。 ◆産業・業務地 - 明和矢島地区周辺は、地域産業や観光などが連携した複合的な土地利用を検討し、道路ネットワークを活用して町内外から多くの人が訪れる交流拠点の形成を図ります。
都市施設の方針	◆道路 - 町道 66 号線や(仮称)大佐貫・大輪線は、地域間の交流や、産業活動の支援に向けて、拠点や各種施設と工業団地などを結ぶネットワークの構築を図ります。 (仮称)大佐貫・大輪線や(仮称)矢島・大輪線は、地域の活力維持に向け、東北自動車道や国道 122 号から工業団地へのアクセス強化による道路整備を図ります。 - 主要な道路は、平常時だけでなく災害時においても安全な道路環境の確保に向けて、歩道設置などの交通安全事業を進めます。 ◆公共交通 - バス交通は、川俣駅や明和町役場周辺への移動や、館林都市圏での連携を支える重要な公共交通であるため、バス路線の維持を図ります。また、生活利便性維持のため、デマンド型交通サービスなどの地域密着型の移動手段の確保を進めます。 ◆公園緑地・河川 - 利根川総合運動場は、レクリエーションなどの開催により、地域住民や来訪者でにぎわう交流空間の形成を図ります。
都市環境の方針	◆循環型社会形成 「もったいない西館」は、西小学校やふれあいセンターポプラと連携したイベントなど、住民の環境に対する意識の向上や地域コミュニティの形成にも繋がる活用を検討します。 ◆地球温暖化対策 - 公共施設は「明和町公共施設等総合管理計画」や「明和町個別施設計画」に基づき、計画的な維持・更新などを図るとともに、再生可能エネルギー導入の検討も行います。
都市防災の方針	◆火災・震災対策 - ふれあいセンターポプラは、発災時に要配慮者を受入れる福祉避難所として機能強化を図ります。 ◆風水害対策 - 洪水により大きな被害が予想されるため、発災前の広域避難を推進するとともに、地域防災力の向上について検討を進めます。 - 西部工業団地に立地する民間事業者などと災害時施設利用に関する協定を締結しており、今後も広域的な防災・減災体制の形成を進めます。

明和町の景色を見てみよう！

《3. 西部地区》



利根川総合運動場



昭和橋



国道 122 号



大輪公園